東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2010 年 4 月 30 日

# イスラームと環境

ムスリムの皆様。この世界には驚異的な秩序や調和、均衡があります。崇高なるアッラーは、世界をすべての被造物に最適な状態に創造され、人間に託されました。すべての被造物を支配する神のカリフ（代理人）としてこの地に送られた人間にとって、自分達に託された自然界を守ることは基本的な義務です。クルアーンではこのことについて、『かれは大地からあなたがたを造化され、そこに住まわせられた』”[1] と記しています。したがって、自然の均衡を損なうような考え方や行いはすべて、クルアーンのこのメッセージと対立するものとなります。ムスリム（イスラーム教徒）はこうした認識に基づき、この世界の素晴らしい秩序・調和・均衡を守り、後に続く世代にそのままの姿で残せるよう、できる限りの努力を払う必要があります。

兄弟姉妹の皆様。自然を破壊し蹂躙するような行為や振舞いは慎むべきです。イスラームにおける環境についての考え方は、信仰に由来するものです。天と地に存在する最小の被造物から最大の被造物に至るまで生きとし生けるもののすべてが、信仰し熟考する人々にとって、物理的な価値を超える精神的な価値を持っています。なぜなら、それらはすべてアッラーによって創造されたものであるからです。この世界のすべてはアッラーの作品です。この世界のすべての被造物は存在すること自体でアッラーを称え、[2] そして、地を歩く動物達や鳥達が私達と同様にそれぞれウンマ（共同体）をつくっていることが、[3] クルアーンでは明らかにされています。したがって自然を守ることは、アッラーの印の一つとしてその価値を認識することであり、それに対して自然を損なうことはアッラーに対する恩知らずな態度とみなされるのです。また、自然界の法則は、アッラーによって定められたものです。クルアーンではそれを『天と地の大権はかれのものである。かれは子をもうけられず、またその大権に（参与する）協力者もなく、一切のものを創造して、規則正しく秩序づけられる』”[4] と言い表しています。

通常の条件の下では、自然界は自らの環境のバランスを保つことができます。しかし、人間の手によって過度に破壊され、汚されることによって、このバランスは崩れてしまいます。つまり環境を破壊するような行動はすべて、アッラーの定められた法を乱そうとすることであると認識しなければなりません。

ムスリムの皆様。預言者ムハンマド（彼に平安がありますように）はマッカ、マディーナ、ターイフ、そしてそれらの周辺の地を現代の自然保護区域のように定めました。そこでは流血をはじめ動物を屠ること、草を抜くこと、木を切ることも禁止されていました。これはイスラームが環境保護や居住地の破壊の防止、自然界の均衡保持のためにとった施策の最初の例です。預言者ムハンマドはさらに、政治課題として環境問題に取り組み、空き地を耕作地として活用しました。そして、環境保護や汚染防止のための整備に多くの言葉を費やし、ムスリムにそれらを行うように推奨し、自らも実践しました。ムスリムはこうした預言者ムハンマドの言行に従い、常に環境に留意しなければならないのです。

私たちは環境を保護することや資源を浪費しないようにもっと注意しましょう。 その気持ちを次世代に伝えるように努力しましょう。環境保護のための活動や団体に協力しましょう。決して忘れてはいけないことは、健康、子供、そして豊かさと共に、環境もアッラーから私たち人間に委託されたものであり、恵みなのです。人間はこうした恵みについて、それを大切にしたかしなかったか、間違いなく裁かれます。

[1] 第 11 章 61 節.
[2] 参照、 第 59 章 24 節.
[3] 参照、 第 6 章 38 節.
[4] 第 25 章第 2 節